第 1 回 長浜市総合計画審議会 議事録

I 日 時 平成 27 年 6 月 26 日（金曜日）13 時 30 分～15 時 18 分

II 場 所 長浜市役所東館 3 階 特別会議室（長浜市八幡東町 632 番地）

III 出席者 石井良一委員（会長）、神谷昌史委員、平山奈央子委員、松島三兒委員
大久保槇雄委員、前田優子委員、塚田益司委員、中西恭子委員（副会長）
福島孝夫委員、大谷晶子委員、板山きよ美委員、平川市孝委員
川崎四朗委員、押谷喜美子委員
【長 浜 市】藤井勇治長浜市長
【事 務 局】藤原総合政策部長、松居総合政策部理事兼総合政策課長
中田総合政策課参事、ほか総合政策課担当職員（3 名）

IV 欠席者 中嶋毅委員

V 内 容

1 開 会

2 市長あいさつ

皆さま方には、大変お忙しい中、第 1 回長浜市総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。平素は、市政各般にわたり、格別のご支援、ご協力を賜りますことに、厚くお礼申しあげます。とりわけこの度は、総合計画審議会委員へのご就任をお願いしましたところ、公私とも大変お忙しい中、ご快諾いただき、ありがとうございました。

さて本市では、平成 19 年に市のまちづくりの基本的指針となる「長浜市基本構想」を策定し、その後、1 市 6 町合併を踏まえ、平成 23 年に改定を加える中で、目指すべき将来像で掲げる「協働でつくる 輝きと風格のあるまち 長浜」の実現に向けた取り組みを、日々、推進しているところです。

皆さんもご存じのとおり、日本創成会議が発表した「消滅自治体」の可能性を示す試算発表がなされたこともあり、政府は「地方創生」をスローガンに、国をあげて、地方の活性化と人口減少対策のための総合戦略策定に乗り出しています。

先日、東京で開催された全国市長会議に出席した際、来賓として出席された安倍総理大臣からは、「地方と国がしっかり連携し、それぞれの役割を担い、活力のある地方をつくる、その為に地方への人の流れをつくり、住んで良かったと実感できる地域社会づくりに全力をあげる。」との決意表明がありました。

また、昨年末の長浜市役所新庁舎竣工式典では、石破地方創生担当大臣をお招

きし、記念講演をいただきましたが、大臣は「公共事業や企業誘致による地域の活性化という従来の手法ではなく、今までに無い、まったく新しい形が求められており、そのためには、農業や林業、観光、サービス業などの地方が保有する資源や力を最大限に活用し、引き出すことが重要である。」と述べられ、最後には「戦国武将が夢をさせ、歴史を変えてきた長浜から、地方創生すなわち日本の創生がスタートするよう期待している。」と熱いエールもいただいたところです。

このことから本市では、県内の他の自治体に先駆けて本年1月1日に総合戦略本部を立ち上げ、人口減少を食い止め、持続可能な地域社会を実現するため、「2060年に人口規模10万人を維持すること」、あわせて「人口構造の若返り」を目標とする「長浜市人口ビジョン」および「長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を6月16日付で、いち早く策定したところです。

今後は、総合戦略に示す「三大都市圏および滋賀県南部への人口流出の抑制」、「若い世代の就労、結婚、妊娠・出産・子育ての希望実現」、「地域の経営資源を生かした課題解決と地域活性化」の3つの柱をベースに、「人口規模の維持と人口構造の若返り」に特化した各種施策を展開してまいります。一方で、これら戦略の趣旨や目的も十分踏まえながら、市民の方々が「長浜市に住んでいて良かった」「長浜市に住み続けたい」と実感でき、安全安心で充実した生活を送ることができる市政運営についても、これまで以上にしっかり取り組んでまいります。

今回の総合計画の策定については、来年9月の議会提案を目指しております。何分限られた時間の中ではございますが、委員の皆さま方には、将来の長浜市の夢と魅力を共有できる総合計画となるよう、忌憚のないご意見と慎重なるご審議をいただきますようお願い申しあげまして、開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

3 委員委嘱及び委員紹介

事務局は、委員に委嘱状を配布するとともに、資料1の委員名簿に基づき、委員、事務局の順で紹介した。

4 会長及び副会長の互選

事務局は、長浜市総合計画審議会規則第4条第1項及び第2項の規定に基づき、会長及び副会長の互選について、その取扱を諮ったところ、委員から事務局案を求める声が出され、事務局案を提示した。

その後、事務局案について諮った結果、会長に石井良一氏、副会長に中西恭子氏を互選することが、満場一致で決定された。

5 会長あいさつ

滋賀大学の石井でございます。会長就任にあたりご挨拶申し上げます。これまでから、長浜市における各種計画の策定にご協力させていただいているという経

緯もあり、ご推挙いただいたものかと思えます。本日のこの会議をスタートとして、総合計画の策定に向けた取組が始まったわけですが、より良い計画とするためには、何よりも委員の皆さま方のご協力、そしてお知恵をいただくことが大切になるかと思えます。

先ほどの市長さんのお話にもございましたが、現在の基本構想の計画期間である平成19年度から28年度までの10年間は、1市6町の合併もあり、長浜市にとって激動の時代であったと思えます。しかしながら、その締め括りとして新庁舎が完成し、北部振興局の機能も充実され、次の10年間に向かって飛躍する土台が整ったことと思えます。国全体が、これまで経験したことがない人口減少社会を迎える中、長浜市がどのように向かっていくのか、長浜市においては県内でもいち早く、総合戦略を策定されたわけでありますけれども、その計画の中では、2060年に人口規模10万人を維持するための一つの目標指標として合計特殊出生率の上昇を掲げられており、現在1.6であるものを25年後には2.07にするという、非常に高い目標が掲げられています。

10年間という長いようで案外と短く、現在10歳の子どもが20歳になるわけです。これから策定する計画は、私たちの計画というよりも、未来の子ども達への贈り物だと思います。それを今を生きる大人の責任として私たちが作るんだという覚悟とアイデアでもって、総合計画がまとまっていければと思います。プレゼントの中身をどのようなものにするのか、これから皆さんとともに考えたいと思いますので、どうぞ、よろしくをお願いします。

6 諮問

藤井長浜市長は、長浜市総合計画の策定について、同審議会の石井委員長にあてて諮問した。

7 議事

(1) 審議会の運営について

議長は、「(1) 審議会の運営について」事務局から説明を求め、事務局は資料に基づき説明した。

(2) 長浜市総合計画の策定に向けて

議長は、「(2) 長浜市総合計画の策定に向けて」事務局から説明を求め、事務局は資料に基づき説明した。

(3) 総合計画の策定に関して委員から出された意見

(座席順により出席委員が発言)

(委員)

総合計画は市の最上位に位置づけられる計画であり、範囲も市政全般にかかわる

ことから、ありとあらゆる様々な事項が盛り込まれるものだと思う。今年度の審議会は残り3回とのことであるが、限られた時間の中で、どのように議論し、取りまとめていくのか、具体的にイメージすることができない。中身が豊かな議論とするためにも、検討を進めるにあたっては、論点を明確に示してほしいと思う。

(委員)

長年、西黒田地区において地域づくりに取り組んでおり、日ごろから人材の育成が大きな課題であると感じている。今の時代に最も必要なのは「絆」であると考えている。支え合い、助け合える地域づくりの理想像の実現に向け、日々活動している。

(委員)

総合計画の「総合」とは、何をもって「総合」と言うのか。それが、全体像を意味するのであれば、非常に大きな範囲で構成する計画であり、様々な分野の人々からそれぞれに話を聞き、それら意見を汲み取ると、どこの市町でも同じ計画になりかねない。長浜の立地、地理特性、歴史、風土をしっかりと取り入れ、長浜らしい計画をどのように作っていいのか、議論する必要があると思う。そのためには、他市の計画がどのようなものなのか、参考にする必要があると思う。

また、哲学者ピーター・ドラッカーの言葉にあるとおり、「すでに起こった未来」を意識しながら、議論することが重要だと思う。

(委員)

新たな総合計画の検討にあたっては、現在の計画にそって、これまでにできていること、できていないことを整理する必要があると思う。その中で、課題や克服すべき分野、重点的に取り組むべきところを明確にすることで、議論を深めていければと思う。

(委員)

長浜から人が流出しているとの話であるが、女性の立場から考えてみると、住みたいまちを選ぶ傾向にあり、選んでもらえるまちでなければならないと思う。どこに住むか、選ぶのは市民である。「長浜らしさ」「住みたいまち」「住み続けたいまち」「子育てしたいまち」とはどんなまちなのか、整理する必要があると思う。また、「長浜の未来を創るまちづくり市民懇話会」は非常に若い世代の活発な人達で構成されていることから、どんな議論が交わされるのか、楽しみにしている。

(委員)

計画の策定にあたっては、時代の潮流や国や県の方向性をしっかりと踏まえることが大切だと思う。大から小へ、といった視点も忘れないように議論したいと思う。

また、現在の基本構想の下でできていること、できていないことを整理し、時代の変化により、新たに生じた課題等も踏まえ、議論していきたいと思う。

(委員)

若い女性の転出が多いのはなぜなのか、考える必要があると思う。私は湖北町速水在住であるが、同地域には市北部地域から移り住んでくる人が多いようである。なぜ速水に移り住んできたのかを聞くと、雪が少なく、生活が便利であるとのことである。その一方で、元の速水の住人は市南部地域、さらには市外へと転出されており、北から南へとトコロテンのように人の流れが生じ、市全体としては転出超過となっている。20代の頃の自分がどうであったか考えてみると、確かに外の世界に出たいと思っていたように思うが、今となっては、長浜市外に住むことなど全く考えることができない。長浜の歴史、文化はとても素敵であり、それらが今日まで伝承されていることへの魅力も感じている。私個人としても、これらの良さを次の世代へとしっかり伝承していきたいと思う。

(委員)

近所でも、若い女性が市外へと転出され、転出された先で結婚され、戻ってこられない人が多いと感じている。なぜ若い女性が転出し、戻ってこられないのか。またその対策をどのように講じるべきか、考える必要があると思う。

(委員)

西浅井町在住で三世代同居である。当地域は他地域に比べ少子高齢化が進んでおり、近所で子ども達が遊ぶ姿を見かける機会も少なく、寂しく感じている。若い世代の人々が転出される最大の理由は、雪の影響ではないかと思う。田舎であっても都会であっても、生活レベルはさほど変わらなくなってきており、私たちが暮らす西浅井地域においても、共働き世帯が多くなってきている。核家族世帯が仕事をもちながら子育てすることは大変であることから、少しでも地域で子育てのサポートすることにより、子育てしやすく、また暮らしやすい環境を作れるよう、放課後児童クラブの立ち上げに関わってきた。一人でも多くの方が、長浜に住みたい、長浜で子育てをしたい、と思ってもらえるよう、今後とも取り組みたいと考えている。

(委員)

市外の大学に進学し、その後、都会で就職、結婚してしまい、地元に戻ってこない状況は今に始まったことではなく、古くから続いている。いろんな価値観があると思うが、決して都会の生活が幸せであるとは限らない。都市部は地価も高く、仮に共働きをして戸建てを購入したとしても、長浜のように広々とした居住空間で生活することは非常に困難である。それがわかっているにも関わらず、市外へ転出される、しなければいけないのはなぜなのか。その流れを変えるためには、魅力ある

就業先を創り出すことが大切になると思う。

(委員)

目標を確認し、それを実現するために何が必要で、どんな課題があるのか。そしてどのように対応すべきなのか。また、限られた経営資源の中で、明確に施策の優先順位付けをする必要があると思う。私は市民懇話会の座長を務めさせていただくが、論点を示しながら、メンバーからは幅広い角度からの意見を出していただきたいと思う。

(委員)

市外、県外から来ている学生と長浜市について話をする機会があるが、学生らが長浜に持つ印象は、とても良いと感じている。長浜に住みたい、長浜で就職したい、と考えている学生も少なからず存在しているが、残念なことに就職先が見つからず、夢を実現できないケースが少なからずある。長浜らしい魅力をどこまで、どのように伸ばしていけるのか、人口の流入策も含め、考えていきたいと思う。

(副会長)

虎姫高校の評議員をしているが、全県一区制度が導入され、県北部地域の高校では、地域外への生徒の流出に頭を抱えている状況にあるが、まさに人口減少問題も全く同様の構図にあるのだと、再認識したところである。長浜は歴史や文化、自然が豊かであり、観光面では非常に魅力的な要素を数多く有しているが、そのことに市民は十分に気づいていないと思う。もっとしっかりと PR すべきだと思う。国では、東京オリンピックを契機として、外国人3000万人のインバウンドを目指すとしているが、長浜においても、外国人に好まれるであろう「盆梅」「曳山祭」「絹(シルク)」「着物」を中心として、外国人観光客獲得に向けたアピールをしていくべきだと思う。また、人口減少対策を考える際には、移民政策についても検討が必要になると思う。長浜には約3000人の外国人市民の方々が住んでおられるが、これまでから多文化共生社会の実現に向け、着実な取り組みがなされており、これは長浜の財産だと思う。これからもしっかりと取り組み、育てていければと思う。

(会長)

人口減少社会は避けて通れないことではあるものの、検討を進めるにあたり、人口の議論にかたよってしまうと、非常につまらないものになってしまうと思う。これからのまちのあり方を考えるにあたっては、他と比べて選ばれることが重要な要素になってくると思う。おもしろいまちであることが求められており、長浜には歴史、文化、芸術性があることから、それらをどのように磨き、打ち出していけるのか、検討に値すると思う。そういう意味で、私はこれからは「芸術性」「デザイン性」「創造性」などを前面に出した都市を作れば、様々な分野(企業内含む)のク

リエイター達が集まり、仕事をし、そこでまた新しい何かが創造され、プラスの循環が生まれるのではないかと思う。次回以降は、そのような夢のあることを考えていければと思う。

8 その他

第 2 回会議は 10 月中旬頃を予定。

9 閉 会

15 時 18 分終了